

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立西淀川支援学校
取り組む課題	生徒の自立支援
評価指標	1 支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上 2 学校教育自己診断（教員） 3 専門性に関する自己評価シート（西淀川支援学校用）における支援機器の活用による評価向上
計画名	「どんどんいこーぜ！プロジェクト」 教育活動における移動支援機器の活用プログラムの充実および移動支援機器学習段階表を用いた評価の妥当性の検証

2. 事業目標及び本年度の取り組み

学校経営計画の 中期的目標	3 【子どもの障がいの状況に応じたより良い教育活動を実践するため、特別支援教育に関する高い専門性と授業力の向上をめざす】 2) 新しい支援機器を導入する等、支援機器の充実による自立活動の指導内容の充実 ア 児童生徒の実態に合わせた様々なスイッチ等を開発、ロコモーターを有効活用し、電動車いすによる児童生徒の積極的な社会参加を促進 ※ 実践報告会等での実践事例の共有。支援機器の有用性に対する肯定的評価 80%以上とする
事業目標	児童生徒の障がいの状況に応じた教育活動を実践するため、「移動支援機器（Don Don ikoo）」を活用した教育プログラムの充実をめざす。平成 30 年度は 72%であった学校教育診断（教員）における支援機器の有用性に対する肯定的評価を、この事業を通して毎年 3%ずつ引き上げる。また、移動支援機器を使用した児童生徒の認知発達の向上を、移動支援機器学習段階表（15 段階）を用いて評価する。そして、その評価の妥当性を検証し、有用性の高い評価指標を精査する。
整備した 設備・物品	Don Don ikoo（どんどんいこー）3 台 ※ 製品概要：自力で移動できない重度の障害を持った子供が自分の意志で移動できることを可能にした電動台車。荷締めベルトで固定するだけで、様々な姿勢保持装置を乗せて動かせる。
取り組みの 主担・実施者	主担： 特色創造プロジェクトチーム 取り組みの実施者： 全教員の 7 割程度を予定
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特色創造プロジェクトチーム 3 年め発足 ・ 移動支援機器指導対象児童生徒の事例検討（4 月～7 月） ・ 第 67 回全肢研発表原稿検討（9、10 月） ・ 第 67 回全肢研富山大会分科会発表（11 月） ・ 改良版専門性に関する自己評価シート（西淀川支援学校用）を全教員に実施（1 月） ・ 大阪肢体不自由自立活動研究会「研究発表会」で 3 年間の移動支援機器活用に関する研究報告（2 月） ・ 移動支援機器活用の 3 年間のまとめ校内報告会（3 月）
成果の検証方法	1 学校教育診断（保護者）：「子どもの可能性を向上させる授業が行われている」

<p>と評価指標</p>	<p>..... 肯定的評価 80%に引き上げる。</p> <p>2 学校教育診断(教員) : 「支援機器の活用により指導内容の充実が図られている。」 肯定的評価 78%から 81%に引き上げる。</p> <p>3 改訂版専門性に関する自己評価シート(西淀川支援学校用) : 自己評価 3以上を 70%にし教員の支援機器の活用の推進を図る。</p> <p>4 移動支援機器学習段階表(15段階) : 評価の妥当性を検証し、段階が1～3段階以上向上した児童生徒を 60%以上にする。</p>
<p>自己評価</p>	<p>1 学校教育診断(保護者) : 肯定的評価 95%..... (◎)</p> <p>2 学校教育診断(教員) : 肯定的評価 90%..... (◎)</p> <p>3 改訂版専門性に関する自己評価シート(西淀川支援学校用) : 「支援機器③移動支援機器(Don Don ikoo等)を活用した指導の知識と技術」の項目は自己評価3以上が全学部合計 60%であった。..... (△)</p> <p>4 移動支援機器学習段階表(18段階) : 50%..... (△)</p> <p>※ 指導事例6例(小2名、中2名、高2名)のR2年度～R3年度の評価指標による評価で実施</p>
<p>事業のまとめ</p>	<p>自己評価については、学校教育自己診断(教員・保護者)の肯定的評価は3年間継続して評価指標を大幅に上回ることができた。専門性に関する自己評価シートにおける評価は、3年間評価指標に届かなかったが、3年間の全学部合計推移を見ると、R1 : 37% → R2 : 51% → R3 : 60%と数値の向上が見られ、教員へ少しずつ浸透したのではないかと考えている。</p> <p>移動支援機器学習段階表は、今年度は1段階向上する児童生徒もいたが、R2と同様、同じ段階で継続指導する児童生徒も多くいたため、R3の評価指標達成はならなかった。</p> <p>最終年度である今年度は、特色創造プロジェクトチームにおいて指導事例6例の検討を行い、3年間の指導の経過を評価し、移動支援機器学習段階表(ver. 5)を完成させた。また、11月の第67回全肢研富山大会分科会発表では、学習段階表と代表的な指導事例を報告した。「移動支援機器学習段階表はとても興味深く、良い資料で公開して事例を増やしていくと良いのではないかと」の指導助言をいただいた。</p> <p>校内では「移動支援機器ありき」ではなく、使用目的に応じて使用することを重視して取組みを推進してきた。特色創造プロジェクトチームは今年度で終了になるが、自立活動専任やプロジェクトメンバーが発信役となり、今後も効果的な活用を校内で推進していきたい。</p>